

目次

1. 巻頭の辞		
部長	横井 嘉文	2
2. 65期の卒業に寄せて		
総監督	道本 光一郎 (25期)	3
新監督	大橋 健人 (58期)	4
前監督	寶嶋 賢二 (49期)	6
助監督	加藤 俊介 (陸上自衛官)	7
3. 祝 辞		
OB会会長	山崎 幸二 (28期)	9
OB	丸山 実 (41期)	10
OB	日高 健太朗 (48期)	11
OB	田之倉 威啓 (51期)	12
4. 64期主将挨拶		
64期主将	高口 望	14
5. 65期挨拶		15
6. 66期主将挨拶		
66期主将	斉藤 理希	24
7. 顧問名簿		25
8. 部員紹介		
66期部員		26
67期部員		29
68期部員		34
9. 65期成績		38
10. OB会だより		46
11. 編集後記		47

1. 巻頭の辞

防衛大学校硬式野球部 65 期生の卒業に寄せて

防衛大学校硬式野球部 部長 横井 嘉文



「65 期の皆さん、卒業できたらおめでとうございます。」（この原稿を書いている 12 月の時点では卒業も留年も決まっていないので...）本年度はこれまでの暗黒時代を払拭し、輝かしい時代が始まるものと思っていました。OB 会との良好な関係を構築し、その多大なる援助を受けユニフォームの新調を行いました。新しい意気込みでリーグ戦を戦いぬき栄誉を勝ち取り、支援していただいた OB の方々に恩返しすることを思っていました。野球部員と指導スタッフ、硬式野球部と OB 会そして連盟との係わりあいの改善が行なわれ、最高の状態でスタートが切れてリーグ戦にて輝かしい戦績が残せることを目論んでいました。しかし、中華コロナによって、野球をする機会は失われました（春のリーグ戦は開催中止）。野球どころか普段の生活にも戒厳下におかれ支障をきたしました。勉学において自己向上を目指す学生が皆無となった今の防衛大学校では、学生にとっては勉学の日常がすべて免疫向上のための休養状態になったことは嬉しいことだったかもしれません。言うまでもなく校友会活動は、将来の組織的活動や運営の仕方を部活動（野球）で学んでいく場です。その修練の場が機能不全となりました。合宿の中止、外部との練習試合は禁止となり、割当制の校友会時間に細々と非組織的練習が行われるようになりました。当然、チーム力の練成は全く出来ませんでした。神奈川大学野球連盟関係者および参加校の努力によって、なんとか秋のリーグ戦は開催されました。しかし、防衛大学校硬式野球部はチーム力の練成無しに個人の力量のみで戦った結果、2 部リーグ 5 位でした。やはり他校は中華コロナ時下においても対外試合を重ねチーム力を鍛え上げていたみたいです。リーグ戦を制するには、個人の力量の向上には限度があるので、外のチームと練習試合を重ねて自チーム力を練成することが重要であることがここで明らかになりました。このことは中華コロナが治まらない限り防衛大学校硬式野球部の低迷が続くことが予見されます。チーム力を向上させる何か特別な方策を考える必要があります。妙案がありませんでしょうか。とりあえず携帯電話でパッチャルな野球活動（いわゆる野球ゲーム）でもやって、仮想空間で実戦感覚を養ってみますか。最後に 65 期生に一言、「死ぬまで野球やってくれ」。

2. 65期の卒業に寄せて

総監督 25期生 空(OB) 道本 光一郎



第65期生諸君卒業おめでとう。4年間の硬式野球部での奮闘、誠にご苦労様でした。今後は幹部自衛官として国を守るための諸準備をよろしく頼みます。

そして第66期から第68期までの学生諸君は、今春からのリーグ戦の準備をよろしく頼みます。新たに私の監督時代の教え子、第58期卒業生の大橋1陸尉が昨年末指導教官として着任し、監督として硬式野球部の指揮を執ることになりました。昨年は「コロナ禍」で変則なリーグ戦でした。ご苦労様でした。

68期生の1学年は、一部の学生しか総監督の顔は知らないと思いますが、卒業アルバムの写真があるので、上級生から見せてもらってください(笑)。

私は第25期生として丁度40年前に4学年で小原台を築立ちました。そしてみんなが今いるこの「花立野球場」(本当は訓練場だけれど)は、私が2学年の秋、昭和53年11月1日に開設されました。今から43年前です。その当時、野球部関係者で生まれていたのは、横井部長、渡邊前部長くらいでしょうか?(笑)

そして、その年の開校記念祭招待試合で球場開きを行いました。相手は東京大学硬式野球部を招きました。スコアは忘れましたが「負け試合」だったと記憶しています。その後、平成になってから大改修が行われて、バックネットの大型化や照明塔・放水設備などが新設されて現在に至っています。しかし我々野球部員がお金を出し合って購入した金属製のフェンスは現在も残っています。一人あたり4~5万円程度を徴収されたように記憶しています。ちなみに当時の学生手当は月額4万円でした(今だと10万円くらいの徴収額かな?)

山崎OB会長(現統幕長)や藤田OB副会長などはまだ入校前でした。当時の野球部員はおよそ40名程度の小さな所帯でしたが、ちゃんと1部リーグ(といっても2部リーグはなくて)で3位の「Aクラス」がいつもの位置でした。申し訳ないですが、横井部長のご出身の横浜国大は4位がいつもの位置(失礼!),横浜市大は5位、そして新加入の幾徳工業大学(現在1部の神奈川工科大学の前身)が最下位の時代でした。

諸君らには是非伝えておきたいと思ってこの小文を一筆したためました。この「花立野球場」は先輩方の多くの苦勞の賜物として今も存在しています。この伝統を絶やすことなく、将来に、そして未来に受け継がれていくことを切に希望しています。昨年はユニフォームが更新されて、昔の雰囲気に戻りました。これからもどうか一部リーグ復帰を目指して、皆で頑張ってください。(2021.1.5記)

65期の卒業に寄せて

新監督 58期 陸 大橋 健人



65期のみなさん卒業おめでとうございます。

12月1日付で、第10特科連隊（豊川）より、第312小隊指導教官として着任し、監督に就任した58期大橋です。私を大きく成長させていただいた防衛大学校硬式野球部に対し、現場において直接的に恩返しをしたいと思い、熱望し、今ここにいます。まだまだ、若輩者の私ですが、全身全霊をかけて頑張りますので、横井部長をはじめとする指導部の方々、山崎OB会長（現：統合幕僚長）をはじめとするOBの皆様方からのご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

コロナ禍において、春季リーグの中止（私も前任地で所属していた社会人野球クラブチームの各種大会が中止となり、悔しい思いをしました。）、練習、オープン戦が思うようにできない苦しいシーズンでしたが、その中でも工夫を凝らし、秋季リーグに臨んだことと思います。私が4学年のプレーする姿を直接見させていただいたのは、9月19日、20日にサーティーフォー相模原球場において実施された東京工芸大学戦のみですが、新ユニフォームでの初勝利の現場に立ち会えたことに感謝します。普段はクールな印象を受ける阿部主将の一塁への気迫へのヘッドスライディング等、照明に映えるアイボリーの新ユニフォームで躍動する姿に感動しました。防衛大学校硬式野球部の新たな時代到来の予感をしております。

みなさんの卒業にあたり、一人の先輩として、修養の身である中堅幹部たる陸上自衛官の立場ですが（どうしても陸上自衛官目線になってしまうことをご容赦ください。）、僭越ながら一言送りたいと思います。みなさんが部隊に配属されると、小隊長、班長などと呼ばれる役職に就き、隊員がつく人がほとんどです。その中には、高校を卒業したばかりの未成年の隊員もいれば、50歳を超える親世代の隊員もいると思います。まずは、よく会話をしてください。SNSの発達や、コロナ禍における各種制約において、隊員と接する機会が以前に比べて減少していると思います。しかしながら、自衛隊は人を骨幹とする組織であるとともに、有事の際には、事に臨んでは危険を顧みず、身をもって任務にあたるための命令・指示を出し、指揮するのは、幹部自衛官であるため、家族以上とも言える隊員相互の信頼関係の

醸成は必要不可欠なものとなります。業務を行う上での要領、各職種的な見地、技術等は、人材育成が非常に優れている自衛隊においては各種課程の入校等により、自ずと身に付くものと思いますが、隊員相互の信頼関係については、一朝一夕で得られるものではなく、家族構成、入隊の背景、性格、趣味等が一樣ではない隊員を掌握し、指揮するのは、容易ではありません。まずは、足を使い、現場に行き、会話をすることからやってみてください。様々なヒントがあるかもしれません。（上記の内容に、正解はなく、私も日々試行錯誤しながら学生、隊員と接しています。）

防衛大学の校友会は、三本柱（勉学・学生舎・校友会）の一部であるという位置付けですが、正直な話、私が学生時代は、そのような意識は希薄で、校友会を頑張るために、勉学、学生舎も頑張るというスタンスでした。しかしながら、後々、部隊勤務において、校友会に全力で取り組むことによって得たもので活かせるものがいくつもあることを最近になって感じました。

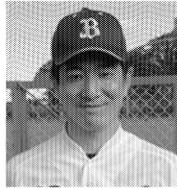
業務において、カバーリングはかかせませんし、隊員の前では手を抜けません（全力疾走）、状況を適切に把握した上で、相手（敵）のことを分析し、チーム（我）の作戦を決める（陸上自衛隊的に表現すると戦術的思考過程）等々あります。

まとめもなく、長々と述べましたが、防衛大学硬式野球部において、私と同じく、花立で4年間努力をした皆さんならきっと部隊でも、様々な壁に当たりながらも乗り越え、将来活躍されると信じております。身体に気を付けて、若手らしく元気に勤務に邁進してください。

加えて、OBとなる65期含め、OBの皆様方におかれましては、OB会費の納入をよろしく申し上げます。

「一隅を照らせ」

前監督 49期 陸 寶嶋 賢二



65期の皆さんご卒業おめでとうございます。前監督の寶嶋3佐です。

みんなには「寶嶋3佐」や「監督」と呼ばせず、半強制的に「修造さん」と呼ばせていました。ご存知だと思いますが、私の本名は「修造」ではなく「賢二」です。『自称他称松岡修造』ということで、笑。とにかく一自衛官というよりは校友会の先輩、身近な兄貴的な距離感で居たかったのがご容赦を。

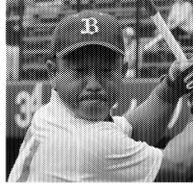
65期のみんなどは丸々2年間をという時間を共有することが出来、大切な思い出が沢山あります。忘れられないエピソードは挙げたら数え切れません。65期のチームについて言えば、主将阿部、副将西田、投手リーダー坂口を核心に本当にまとまりが強く、かつ雰囲気が高く、かといって和気あいあいの仲良し集団という訳で無く、礼儀と規律がしっかりある上でチームのために言うべきを言い、やるべきをやる「強い絆」で結ばれた「Oneteam」を体現してくれたと思います。今年一年はコロナの影響で春リーグが中止になり、夏合宿も断念せざるを得なくなっていました。OB会のご支援を頂き作成した新ユニフォームはグッズ系の西村以下学生の苦勞の賜物であり、秋シーズンで袖を通し戦えたことは何にも変え難い喜びでした。

65期チームで特に忘れられないのは、秋シーズンにおける【横浜国立大相手の激勝】と【横浜市立大相手の2連敗】です。(横井部長の母校である)国大相手の10対1という勝利はまさに65期チームがやってきた野球が結実した最高の試合だったと言えます。今でも思い出すと鳥肌が立つ想いです。市大戦の連敗は逆に悔し過ぎて記憶が飛んでいます、泣。野球とは人生の縮図の様に本当に奥深いものだとしみじみ感じたものでした。

最後に皆さんに伝えたい事。

『みんな一隅を照らしてくれて有難う！試合に出るもの出れない者、日の当たるもの当たらないもの必ずチームにはいます。でも一人一人かけがえのない役割を持ち一隅を照らしてます。その尊さに差はありません。野球部のみならず、これからの人生に生かして下さい。最後に。阿部、いいチーム作ってくれて有難う。このチームで監督出来て幸せでした。ざわちん、ガールズを牽引し、ひたむきに声出して野球を愛してくれて有難う。4年生みんな有難う。横井部長、道本総監督、渡邊前部長、加藤助監督(カトサン)感謝です。大橋くん、斉藤、あとは頼んだよ。周りのみんな支えてやってね。野球部は一生のダチを作る場所でもあります。4年生は部隊で会える日を、3年生以下は来季の試合を楽しみにしています。』

みんなが笑顔で優しく【逞しい一隅戦士】になることを心より祈念します。 修造



65期のみんなご卒業おめでとうございます。あつという間の65期政権でしたね。

まずはじめに助監督として受け入れてくれて本当にありがとうございました。誰よりも口うるさく、口が悪く私にいろいろ言われて嫌な思いをした者も少なくないと思います。そんな中でも聞きに來たり、迷った時の相談口として使ってくれた事をととても感謝しております。防大に勤務して私も長くなりましたが、今までかかわらせてもらった期で62期が最強と思っていました。成績だけで言えば今も最強なのですが、野球に対する姿勢、考え、発想、新しい事への取り組み、そして何より人の話やアドバイスをしっかり受け取り考えるという精神に同じ野球人として尊敬すらしていました。ただ唯一悔やまれるのは先程述べた「最強」の称号を手に入れることがコロナ情勢により出来なかったことです。春の大会が実施できていれば秋はもしかしていたら・・・という考えが未だに頭に残っています。ただ、65期(野球部だけではなく)といえ防大在学中に入学当初からいろいろな事が起きた(る)期だったので、最後の最後までコロナ情勢により春季大会中止の時は怖くなったのを覚えています。そして迎えた秋季大会ではとても躍動しましたね。楽しそうにしているみんなを見て大会が終わらなければいいなと思っていました。順位としての目標は果たせなかったけれど十分65期としての結果は出してくれたと思います。とすることで、65期は私の中で「最高」のチームとなりました。これからの人生においてずっと心に残るかけがえのないチームになりました。

阿部・・・主将としてお疲れさん。(勝負の赤パンこれからも忘れずに)

西田・・・いつまでもチャラくいろよ

坂口・・・本当にありがとな。たくさん助けられました。

西村・・・貫禄に磨きをかけるよ

久守・・・野手としてもっと早ければ・・・いろいろなものを大事にな

小澤・・・いつも元気をありがとう。悩むことを恐れずにな

堅田・・・あんなに誇りのあるコーチャーは堅田がはじめてだった

長橋・・・人が好過ぎるなよ。いじられキャラお疲れ様でした。

木村・・・一番指導したな。かわいがられるキャラでいろよ

小楯・・・チームのためにいろいろしてくれてありがとうな

最後に、防大を卒業することは、一つの終わりではなく、ここからいろいろな道へ旅立つみんなのスタートです。4年間の防大生活、野球部、人間関係、勉学、何一つ無駄なものはありません。それぞれの道で必ず役に立つ事をしてきたと自信を持ってください。そして防大在学中のそれぞれが心にある一番つらかったことと、一番楽しかったこと(嬉しかったこと)を忘れないでください。今後の人生において必ず役立つときがきます。あと、胸を張って防衛大学校卒業生としてこれから歩いていってください。

この場をお借りして、こんな私を助監督として受け入れて下さいました横井部長、道本総監督、山崎OB会会長をはじめとしたOBの皆様、そして防大勤務中に携わらせていただいた59期～68期までの野球部員の方々、本当にありがとうございました。心より感謝と御礼を申し上げます。並べて今後も防衛大学校硬式野球部を何卒よろしくお願い致します。

3. 祝 辞

ご 挨拶



OB会会長
山崎 幸二

第65期硬式野球部の皆さん、ご卒業おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。また、部の活動において、ご尽力いただいている横井部長、道本総監督、大橋監督、寶嶋前監督をはじめ、関係者の皆さまに、感謝申し上げます次第です。

令和2年度は新型コロナウイルスにより日本のみならず世界の多くの方々感染症対策を余儀なくされ、4月から5月及び1月から2月には日本政府による緊急事態宣言の措置がとられました。スポーツ界においても東京オリンピックの延期や、初めて全国高校野球選手権大会が中止されるなど、対応を迫られました。自衛隊においても逼迫した医療体制を補うための災害派遣であったり、教育訓練や勤務体制の変更を迫られました。それは、防衛大学校も例外ではなく、防大生活への影響・制約は計り知れなかったと思います。

卒業生の皆さん、今年1年の野球生活は満足のいくものではなかったかもしれませんが、その経験を是非大事にしてください。最上級生として、これまで誰も直面したことのない問題に立ち向かったと思います。感染症対策を講じつつ、限られた時間において皆で考えて行った練習や試合で得た経験は、これからの自衛隊生活の糧になります。今後、天を仰ぎたくなる難局に遭遇した場合において、必ずやこの経験が生かされるものと信じます。防大硬式野球部で培った気力・体力、考える力、そして何より同期・球友との絆を大切にしてください。

第66期以下の皆さんは、これまで先輩が築き上げてきた成果や野球への思いを引き継ぎ、「2部優勝、1部昇格」の夢を実現してもらいたいと思います。

最後に、改めて第65期生の皆さんのご卒業をお祝いするとともに、部の活動に際しOB会としてできる限りの支援を誓い、ご挨拶といたします。

第65期の卒業に際して
～制約がある中でどうするべきかを考える～

第41期 丸山 実

第65期硬式野球部の諸君、卒業おめでとう。数多くある校友会の中から硬式野球部を選択し、4年間真摯に取り組むとともに、良き伝統を継承してくれたことに敬意を表したいと思います。

今年度は、コロナウィルス感染の世界規模での拡大という未曾有の出来事がありました（現在も戦いの最中ですが）。これにより、スポーツ界でもオリンピックの延期や甲子園大会の中止など、想定外の出来事が続きました。神奈川大学野球連盟に目を転じて、春季リーグが中止となり、硬式野球部の夏季合宿も中止を余儀なくされたと聞いております。

4学年の皆さんが野球人生の集大成として位置付けた最終年度のプランは、思い通りとならず、時としてモチベーションの維持にも苦勞されたものと推察します。未だ硬式野球部での活動に未練が残る人も多いかと思いますが、まずは自衛官としての新たなステージに挑んで頂きたいと思います。私は部隊での勤務を経て小隊指導教官として母校に戻り、硬式野球部のコーチとして再び「花立」で汗を流す機会を得ましたが、皆さんも防衛大学校での勤務を希望し、後進の育成を使命に頂きたいと思います。

残された現役の諸君にも一言申し上げたいと思います。神奈川大学野球連盟の1部リーグは、全て私学の強豪校が独占する状況にあり、1部への昇格という目標は我々の学生時代よりはるかに高いハードルになっているものと承知しています。しかし、諸君は1部校との部員数や練習環境の違いなどを言い訳にしていないでしょうか？

ここで、ご承知の方も多いと思いますが、長崎県の大崎高校の快挙を紹介したいと思います。長崎県西海市の人口約5千名の離島である大島に所在する県立の大崎高校は、全校生徒が約110名と少ないだけでなく、数年前までは野球部員が9名にも満たない廃部寸前の状況でした。広島カープで活躍中の今村投手を擁して清峰高校を甲子園に導いた経歴を有する清水監督が2017年秋に大崎高校へ着任後、わずか3年で秋の九州大会を制するという快挙を果たしました。

この快挙は、清水監督の手腕もさることながら、様々な制約を乗り越えてきた生徒達の努力が如何に素晴らしいものであるかを、野球に携わる諸君は肌感覚で理解できると思います。様々な制約の中で成果を出すプロセスは、防衛大学校の硬式野球部での活動に通じるものです。各種制約を言い訳にすることなく、その中でどうすれば最善の成果が得られるのかを、チームとして、あるいは個人として考えるプロセスは、欠かせないものであり、今後の人生の糧にもなる重要な思考過程と思います。諸君には今回の大崎高校の快挙を大いに刺激としてもらいたいと思います。

最後に、横井部長や道本総監督をはじめ、日頃から硬式野球部の活動を支えて頂いている顧問の方々にOBの一人としてこの場をお借りして感謝申し上げるとともに、ユニホームが一新された中で、悲願である1部リーグへの昇格という新たな歴史を刻むことができることを祈念して結びとします。

激励とお願い

第48期 防大硬式野球部
日高 健太朗

第65期硬式野球部の皆さん、ご卒業おめでとうございます。防大硬式野球部で過ごした4年間、楽しかったこと、辛かったこと色々と経験されたかと思います。特に今年の4年生については、新型コロナウイルスの影響による春季リーグ戦の中止、練習時間の制約、秋季リーグ戦の一部制約等、多くの制約事項があり、大変な経験をされたかと思います。そのような中でやり切った4年間、お疲れ様でした。今回「球友」に寄稿する機会を頂きましたので、当時の野球部の思い出を振り返りつつ、現在、野球部OB会事務局の事務局長補佐として勤務している立場からも一言、述べさせていただきます。

【当時の野球部の思い出】

あらためて自分の防大硬式野球部の4年間を振り返りますと、あまり野球選手としては成長できなかったかもしれませんが（笑）、組織をどう強くするかについては、非常に学ぶものがあったと考えています。1, 2年生の時はピッチャー（主にバツピ）、3年生の時はファーストとなり、4年生ではチーム事情を踏まえ、チームのためと思い再度、ピッチャーを志しましたが、4年生春休みの練習試合で1イニング7失点したため、気持ちよく断念し、GM（グラウンドマネージャー）を務めることとなりました。練習メニューを考え、アップを統制し、守備練習でノックし、試合ではサインを出す等、選手とは違う、大学野球ならではの立場でチームに貢献しようとしたことは、良い経験となりました。GMとして特に心掛けたことは、「言葉」です。当然、強制力を発揮するほどの技術や知識もないため、どのようにすれば個々の能力やチームの士気を向上させることができるかと考えた時、「人を前向きにさせる言葉」「人に考えさせる言葉」を少しでもかけられるようにしました。これらは防大卒業後に部下を持つ我々にとっては非常に貴重な実体験であり、今後の資となりました。更にそれが乗じ、30歳でCGS（指揮幕僚課程）に入校した際、統率論文で他の者が軍人を題材に選ぶ中、私は故野村克也監督を統率の題材に選び、統率論文を書かせていただきました。組織はリーダーの力量以上には伸びないとの統率の考え方、読書と実経験に裏付けされた人生観や説得力は、自衛隊にも通ずるものがあり、非常に勉強になったと思います。

【OB会事務局長補佐としての雑感】

僭越ながら、令和2年度からOB会の事務局長補佐として勤務しております。昨年度は夏合宿に、今年度は秋季リーグ戦の応援に参加し、今の学生は野球が上手いなあと感心しましたし、元気をもらいました。「学生・選手の立場」から「OBとして会費を支払う立場」になり、今は「会費を集めたり、OB会を運営する立場」になっています。事務局長補佐の仕事は結構時間が拘束されるのですが、どの立場になっても新たな気付きがあり、比較的楽しくやらせていただいています。学生・選手時代や、OB会費を受け身で払うだけの時には気付きませんでしたが、防大硬式野球部は色々なOBの方のご協力により下支えされています。逆にこのようなことを少しでも学生・選手の時から知ること、モチベーション向上の一つになりますし、相互理解や団結につながると思います。野球はチームスポーツであり、金のかかるスポーツ（短艇委員会等はOBの集金をしてない）であり、個々の長所を生かして勝利を模索するスポーツなので、相互理解・尊重はチームの力になります。

最後になりますが、卒業生の皆さんはこれから初級幹部として辛いこと、苦しいことがたくさんあるかと思いますが、「民間の安い月給・不安定な職業に比べたら」とか、「同期がどこかで頑張っている」と考えれば乗り越えられると思います。頑張りましょう！そして防大硬式野球部の先輩を見かけたら声をかけ、甘えてください。第66期以下の皆さんは、卒業生やOBの思いを受け継ぎ、これからも良い防大硬式野球部を作っていくてください。

後輩へ送る言葉

田之倉 威啓（51期生）

（はじめに）

第65期硬式野球部の後輩の皆さん、卒業おめでとうございます。

皆さんの活躍は、硬式野球部OB会を通じて伺っています。さわやかに躍動する皆さんの姿を目にし、私も益々国防に燃えております。（・・・いろんな意味で燃えています。）

今回、球友への投稿依頼を受け、私の学生時代の思い出を振り返ってみました。悔しい記憶ばかりが思い出され、「あの練習はきつかったけど意味なかったかも」、「もっとこうすればよかった」とあれこれ考えたものです。私にとっては、最早手遅れであることですが、少しでも皆さんのためになればと思い、今回は、私の『学生時代の思い出』を振り返りながら、『OBからのアドバイス（小言）』を述べていきたいと思います。少しでも参考になれば幸いです。

（学生時代の思い出）

～一部昇格最大のチャンスの捕逸～

防大2学年時、当時の49期政権も『1部昇格』の目標を掲げ、秋季リーグ2部で優勝し、入れ替え戦に臨みました。相手は、春季リーグで我々を破り1部昇格を果たした鶴見大。何度も苦渋を味わされた因縁の相手でありました。私は先発投手を務めましたが、2-2の同点で迎えた最終会、低めのスライダーを上手くすくわれ、勝ち越しのホームランを許しました。その後、再び同点に追いつくものの、最後はフォアボールから始まったピンチに耐えられず3-4で敗れました。結局、次戦も1点差で敗れ、2部残留が決まりました。僅差の試合でしたが、実力の差は大きなものであったと痛感しました。

～我が自滅による50期政権の幕切れ～

防大3学年時、当時の50期政権も当然『1部昇格』の目標を掲げ、秋季リーグ2部で優勝し、再び入れ替え戦に臨みました。相手は、長年、1部でプレーしてきた横浜国立大学。ここでも、私は先発投手を務めましたが、「一部」というプレッシャーに負け、結果は散々たるものでした。フォアボールでランナーを溜め、置きにいったボールを痛打される典型的な自滅パターンにより2連敗し、またしても2部残留が決定しました。悔しい気持ちと申し訳ない気持ちで胸が埋め尽くされ、50期の先輩方の前で涙を流しながら謝罪したことが思い出されます。その時の先輩の言葉「ここまでこれたのはおまえのおかげだ。ありがとう。」に救われたことを今でも感謝しています。

～雪辱に燃えたオフシーズン～

防大4学年となり、50期が引退した後、投手責任者を任されました。

私は、今までの悔しい思いを晴らすべく、厳しい練習メニューを組みました。ロードワーク、2000m分のダッシュ、下半身の筋トレ、遠投による地肩作り、唯々、練習量を

増やすことを重視して、努力した分だけ結果はついてくることを信じ、我武者羅に練習メニューをこなしました。「果たして、これが真の意味での努力であったか否か」の問題が、今の私の後悔の一要因となっています。

～最後のシーズン～

昨シーズンの入れ替え戦における因縁の相手、横浜国立大学が2部に降格し、横国に勝たない限りは、入れ替え戦にすら辿りつかない厳しい環境の下、最後のシーズンを迎えることとなりました。結果として、なんとか横国から一つ勝ち星をとったものの、リーグ戦で優勝することができず、我々の政権は幕を閉じました。

(OBからのアドバイス(小言))

ここでは、決して、「この4年間の経験が私を強くしてくれ、陸上自衛官人生においても、高い壁を乗り越える糧となっている」とは述べません。それよりも、「より科学的な思考をもって物事に取り組むことが重要である」ことを強調したいと思います。野球を取り巻く環境は決して普遍でなく、刻一刻と変化しています。その変化を捉えつつ、今一度、チーム・個人の現状を分析してみてください。「なぜ彼はストライクがとれないのか。体重移動で軸足が急に折れ、目線が大きく動いているからだ。」「なぜ膝が折れるのか。軸足のエッジの効きが悪いからだ。」等の分析のもと、どんな練習をするのか、洗い直してみるのも一案です。私がやっていた根性を重視した練習は、流行ではありません。ダルビッシュ投手のYOUTUBEを観る等、様々な切り口からの刺激を受けて、自らの野球理論を逐次アップデートしつつ、自らを振り返り、課題を見つけることによって、はじめて、今後の努力のスタートラインに立つことができると思うのです。私は、この手法を用いた経験こそが人生の糧となるものと思います。

(最後に)

在校生の皆さん、幹部自衛官になれば、もう野球を全力でやることはできません。いま野球ができる喜びを噛みしめて、青春を十分に謳歌されてください。幹部自衛官になった暁には、みなさんを心の底から歓迎したいと思います。野球に賭ける情熱を我が国防衛にシフトチェンジし、国の為、世界の為に、共に頑張りましょう！

4. 64期主将挨拶

防衛大学校硬式野球部 64期主将 高口 望

私皆さま、ご無沙汰しております。64期硬式野球部主将を務めさせていただきました、高口です。大学卒業後は、任官辞退し、国際協力を行っているNGOでインターンしております。

65期の皆さま、ご卒業おめでとうございます。今年度は新型コロナウイルスの影響で思うように野球ができず、苦勞したと思います。春季リーグが中止になり、大変悔しかったのではないのでしょうか。そんな中、秋季リーグでは、皆さまのご活躍を拝見し、OBとして大変嬉しく感じておりました。特に、前年度1部リーグで活躍していた横浜国立大学に大勝した際は、鳥肌が立ちました。本当にお疲れ様でした。



さて、社会に出た私から皆さまに実践してほしいことと伝えたいことがあります。実践してほしいことは、防衛大学校硬式野球部の経験を通して、できるようになったことをノートに書き出すということです。社会に出て自分は無力だと感じるが多々あります。英語も喋れない、電話対応や礼儀正しいメールも送れない、パソコンの知識も乏しい。できないことを数え始めると、きりが有りません。それでも、前に進まなければいけない。そんな時、硬式野球部主将という経験を通して、できるようになったことをノートに書き留めてみました。そうしたことで、自分のやるべきこと、進むべき道が見えてきました。皆さまも実践してみてください。

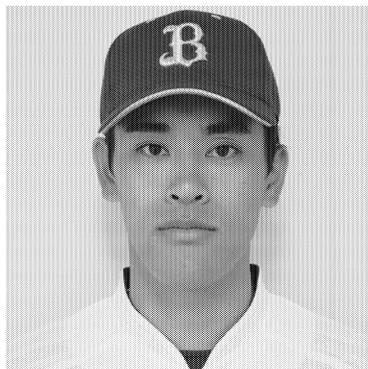
伝えたいことは、辛いときは逃げていいということです。みなさまもご存知の通り、今年の春、私たち硬式野球部の先輩が自ら命を立たれました。その先輩は、とても優しく、よく可愛がってもらったことを覚えています。私が使っていた野球バックはその先輩のお下がりでした。自衛隊員ではない私が言うのも無責任かもしれませんが、辛いときは逃げてください。辛いときは、いろんな方を頼ってください。自分には関係がないと思っている方もいらっしゃると思います。でも、もしかしたら周りに辛い思いをしている同期、部下がいるかもしれません。そんな時は手を差し伸べてあげてください。

以上2点でした。お祝いの中でこのような書くことは非常識なのかもしれません。それでも皆さまに伝えたい、伝えるべきだと思いました。

最後に、伝統ある球友の寄稿をさせていただく機会をいただき、64期を代表して感謝申し上げます。そして、防衛大学校硬式野球部の、益々のご活躍と皆さまのご健勝を願い、終わりの言葉とさせていただきます。

5. 6 5期挨拶

主将 阿部 将大



1. 捕手
2. 陸上要員
3. 公共政策学科
4. 安積高校
5. 右投右打

高校野球は自分の中で楽しむことができずに終わってしまい、かなり後悔が残ったことから防大でも野球を続けようと決意した。たいした力量もなかったが、1学年時からベンチ入りさせてもらい、様々な経験を積ませてもらった。自分は元々全く真面目ではなく、2年の時には練習に寝坊して遅刻したり、めんどくさくなってサボったり、アメフトに転部しようか迷った時期もあった。そんな自分が4年生になりキャプテンをやったのだから今考えると驚きだ。

64期が良い雰囲気を作ってくくださった中、自分たちの政権運営が始まった。65期政権はチームが在る目的を楽しむことに設定してスタートをきった。走塁に力を入れた野球で、自分たちのスタイルはどんどん確立していき、強敵相手にも少しずつ勝てるようになってきていた。その矢先、コロナの影響で春合宿、春リーグ、夏合宿が中止が決まった。この間、かなり悩んだりもしたが、同期や下級生のお陰でなんとか硬式野球部はモチベを下げることなく、秋に照準を合わせる事ができた。結果こそついてこなかったが、格上の国大相手に楽しい野球をして勝てたことは、一生忘れることは無いと思う。そしてなにより、その瞬間楽しそうに野球をしていていた同期と後輩の姿は忘れることができない。やってきてよかったと思えた瞬間だった。キャプテンをやれたことは自分の人生にとっても、本当に大きなきっかけとなった。政権が始まる時に、自分をキャプテンに指名してくれた同期には心から感謝したい。

特に、副主将の西田には本当に感謝している。野球に熱い情熱を持って自分やチームを裏から支えると言う役目は間違いなく彼にしかできなかったと思うし、最高の働きをしてくれた。

その他にもユニフォームを一新してくれた西村、難しい起案を通してくれた堅田、野球部の会計・後方で活躍してくれた木村、投手陣をまとめてくれた坂口、全員の安全を守ってくれた小澤、ブルペンを守ってくれた長橋、超ユーティリティーな久守、64.5期の小楯(笑)。ほんとにみんなありがとう。ついてきてくれた後輩たち、ありがとう。そして、野球部を支えてくださった部長・総監督、市ヶ谷から通ってくださった監督修造さん、常に私たちに気にかけてくださったコーチ加藤さん、裏で支えてくださったコーチ奥山さんには心から感謝いたします。

最後に後輩たちへ。今後の活躍を心から願っています。楽しんでやれ！それが全てだよ！
本当にありがとうございました。

副主将

西田 龍



1. 内野手
2. 航空要員
3. 機械工学科
4. 戸塚高校
5. 右投左打

62期～64期の運営暗黒時代を乗り越えた65期政権での1年間は、人生で最も野球を楽しめた1年間でした。コロナ情勢下での活動は厳しく、2部優勝、1部昇格は叶いませんでしたが、66期以下の皆には、主将の斎藤理希、副主将であり愛弟子の加藤猛を中心として、この礎にさらなる発展を目指して頑張ってもらいたいです。

話は変わりますが、私は機械工学を専攻しており、横井部長の下で流体工学の卒業研究をしていました。さらに、リーグ戦期間中は、横井部長のご厚情により、野球に集中することができる環境を作ってくださいました。そして、卒研の時間はグラウンドに行き、白球を追いかける日々を過ごしていました。その成果もあり、機械工学科のメンバーは、リーグ戦において軒並み良い成績を出すことができました。私が防衛大学校硬式野球部での最後の1年間で充実したものにしたのは、横井部長のおかげといっても過言ではありません。感謝してもしきれません。これから、機械工学を専攻し、横井嘉文の傘下に入る者達は、野球、勉強共に手厚いバックアップ体制が整っているので、安心して入ってきてください。卒業後も定期的に横井部長の元に赴く予定なので、皆の成長した姿を見ることを楽しみにしています。

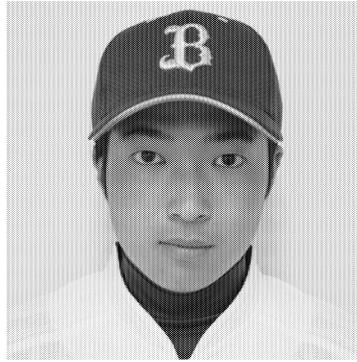
私自身は、硬式野球部での経験や学びを活かして、新たなステージで頑張りたいと思っていますので、温かく見守っていただければ幸いです。

最後に、4年間65期を支えてくださった監督、部長、顧問の方々やOBの皆様へ心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

P.S. プロスピの挑戦。いつでも待っているよ。またいつか会おう。

内主務

堅田 寛典



1. 内野手
2. 航空要員
3. 応用物理学科
4. 奈良高校
5. 左投左打

卒業するにあたり今までご支援いただきました監督をはじめとする顧問の方々、OBの方々、ついてきてくれた後輩たち、辛い時に励まし支えてくれた同期に感謝いたします。

四年間の硬式野球部生活は今まで以上に人との繋がりを感じることができたものでした。入校当初、私は肩や腰、太ももの怪我に悩まされていました。今まで長年続けてきた野球ですが、怪我がなかなか治らず辞めようと思ったことが何度もありました。そんな時に私を引き留めてくれたのは、62期から64期の先輩方の存在です。私と同様怪我に悩みながらもチームのために毎日練習に参加する姿、チームのことを考えて練習に取り組む姿、そして何よりも野球が好きという情熱を持つ姿を見て、私も野球をまだ続けたいと思えました。

また長年野球を続けてきましたが、今までで一番同期の大切さを感じることができました。防衛大学校に入校してから勉強と部活動に加え、学生舎生活に取り組まなければならないというのは想像を遥かに超える厳しさでした。日中、上級生の圧力に精神を削りながら課業時間を過ごし、その後に野球部で活動をし、そして一日の最後にも学生舎で生活しなければなりません。学生舎生活は走ったり、清掃をしたりと身体的な疲労と、心が休まる瞬間がない精神的な疲労で本当に辛い日々でした。その辛さに耐えられないときが何度もありました。そんな時に一番の支えになったのは、野球部の同期でした。同じ境遇に耐える同期たちを見てみると、私だけ辞めるわけにはいかないと思いました。一年生の時に培った同期間の絆は2年生以降もより強固なものになり、私にとってかけがえのない存在になりました。防衛大学校の野球部で築いた人との繋がりや、生涯の宝となりました。また、ここで得た人との関わり方は今後の自衛官人生で役に立つものだと思います。様々な困難がありましたが、野球部を選んで本当によかったです。

2 大隊責任者兼安全係

小澤 恵里華



1. 内野手
2. 陸上要員
3. 公共政策学科
4. 南陽高校
5. 右投右打

「試合に出られないのに何で硬式野球部に入ったの？」

これは、私が4年間周りの人たちに聞かれ続けた言葉です。でも、そんな言葉よりもずっと、野球が出来ることだけが楽しかったです。

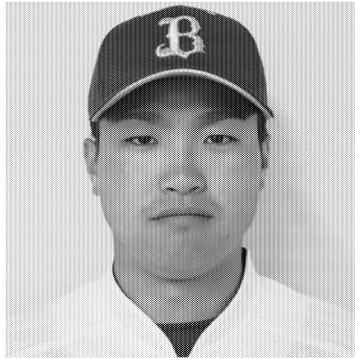
1年生のころ、私が硬式野球部に入部したとき、女子学生は一人でした。しかも、私は小中7年間のソフトボール経験しかありません。初めての野球、しかも硬式。周りには10何年と野球をしてきた男子学生しかいません。皆さんとても優しく、たくさんのことを教えてくださいました。でも私はへたくそすぎました。ノックに入っても私のせいでプレーが中断することばかり。練習中に何度も泣いて、周りの人たちを困らせました。私は必要ないんじゃないかと1年生の中期、本気で硬式野球部をやめようか考えました。それでも、上級生や同期に支えられながら続けていきました。

ただ、私はへたくそすぎて試合に置いて行かれます。それが悔しくて私はスコアを勉強し始めました。するとだんだんと試合に連れて行ってもらえるようになりました。野球が上手なくなったってチームの役に立つことはなにかあるはずです。まさに「一隅を照らせ」ですね。

2年生のころ、なんと山田が入部！女子が2人になりました。3年生では廣瀬が、4年生では小笠原と大野が入部！硬式野球部に女子学生が5人もいる日が来るなんて！入部した当初は思いもしませんでした。これだけ増えて本当に嬉しいです。ここまで女子学生が増えたのも、私が4年生まで選手でいられたのも、上級生、同期、修造さんをはじめとする指導をしてくださる方々のおかげです。野球はまだまだへたくそで、野球が好き！という気持ちだけの私を支えてくださって本当にありがとうございます。硬式野球部を途中でやめなくて本当に良かったです。

最後に女子学生！私は試合に出られなかったけど、みんなは出られるように頑張るんだよ！！応援しています。

投手リーダー兼4大隊責任者兼OB係 坂口 拓



1. 投手
2. 海上要員
3. 航空宇宙工学科
4. 福岡高校
5. 右投右打

防大硬式野球部に入部するまでは、小、中学校の軟式野球までしかやっておらず、高校3年間と1年間の浪人期間もあったため4年間のブランクがある状態でのスタートでした。初めのほうは、練習についていけないか不安な状態からスタートしましたが、先輩や同期のおかげでなんとかついていくことができました。チーム事情から2年春のカッター終わりから投げはじめ、4年の秋終了まで公式戦39試合に登板しました。試合を通じて多くのことを経験し、成長することができたと思います。

私が成長するきっかけになったものはたくさんありますが、ここで2つ紹介したいと思います。1つ目が2年の冬に肩を痛めたことです。もともとネットやYouTubeなどで野球に関する情報を取り入れていましたが、これをきっかけにさらに自分で情報収集や勉強をするようになり、肩に負担のかからないフォームを追求することにより投げる球の強度が自然と上がっていきました。この時、その土台となるフィジカル強化を手伝ってくれた同期の小椋君には本当に感謝しています。後輩たちにも、フィジカル強化や技術の習得に関しては自分で勉強したり、得意な人に聞いたりして日々野球に関して真剣に考えることをお勧めします。2つ目が、加藤助監督に精神面や技術面を教わったことです。試合を通じて投球時の気持ちの持ち方や考え方を教えていただき、投手の継投なども一緒に考えていただきながら、オフシーズン中にはたくさんの成長するためのヒントをくださいました。本当にありがとうございました。

最後に、後輩の皆には、野球に対して真剣に取り組み、どのようにすれば強いチームが受け継がれていくのかをしっかりと考えて欲しいです。それが毎年できていけばどんどん強いチームに向かって進んでいくと思います。今後の活躍に期待しています。そして、修造さん（寶島監督）をはじめ、支えてくださったすべての方々に感謝したいと思います。

会計

木村 航大



1. 外野手
2. 陸上要員
3. 情報工学科
4. 観音高校
5. 右投右打

私は、硬式野球部で「塵も積もれば山となる」や「好きこそものの上手なれ」という言葉を学んだ。それは、例えば学習率や上達率が低くてもやり続けると思いもよらないほど上手になるということであり、それを続けるためには好きでないといけないということである。

また、同じ意味の言葉に「停滞は後退を意味する」という言葉もある。つまり、練習しなければ自分の実力は総体的に下がっていつているのである。

偉そうに言っているが前に述べた言葉を私は失敗から学んだ。正直、毎日の練習に体力や技術の向上は感じられなかった。よって、日がたつにつれ私は野球部から足が遠のいていった。しかし、後になるにつれて真面目に練習に行っている同期や後輩との差は歴然となってきた。後輩に伝えるとすれば、自分では感じられないほど継続は大きな力であると伝えたい。

65期政権になって私がしたことを書こうと思ったけれど困ってしまった。なぜなら、私は特に何もしていないからだ。グラウンドでは主将の阿部君がまとめ上げていたし、練習内容や試合のメンバーは副将の西田君がしていた。物を買うのは西村君がしていたし、校友会内での安全は、小澤さんと長橋君がしていた。ピッチャーは坂口君がまとめ上げていた。みんなが頑張ってくれていたから硬式野球部は成り立っていたのだと深く感じている。自分があえて、何をしたかを挙げるのであれば、雑用をしていた。その雑用をすることによって、部員が野球部を嫌いにならないように努力していた。後輩へのアドバイスをするのであれば、組織を成り立たせるうえで誰にでもできるけど面倒な仕事というのが必ず出てくる。それを積極的にしてくれる人が多くなればよりストレスの少ない風通しの良い組織となる。野球部で「一隅を照らす」場所を見つけよう！！

追伸

65期の目標は「大躍進」だったから、66期は「文化大革命」だったらいいな。

OB係

久守 大志



1. 内野手
2. 陸上要員
3. 機械工学科
4. 小平高校
5. 右投右打

自分が防衛大学校硬式野球部に入ろうと思ったのは、高校の夏の大会1アウトランナー満塁の千載一遇のチャンスで凡退してしまい、試合に負けたのが悔しかったので大学では絶対に打ってリベンジしようと思ったからです。しかし、自分は防衛大学校に入ってなぜかピッチャーをしていました。そのままずるずると3学年の秋までピッチャーとして試合に出場していましたが、ひじを痛めて試合に出られなかったり、試合に出てもコテンパンに打たれ、2部の中で防御率の高さトップ3には名を連ねていました。それまで自分には向上心がなく伸び悩み、野球が嫌いになっていました。このままでは大学4年間の野球が無駄になると思い、もう手遅れとは思いつつ内野手にコンバートしました。そこからはスタメンを奪還すべく必死に練習を重ね、自分の成長をしっかりと感じられたことで探求心など野球に対して真摯に向き合い、いつの間にか野球が好きになっていました。また自分が野手としてこの1年間で成長できたのは同期や後輩の助けがあったことも理由として挙げることができます。4学年になって改めて同期や後輩の存在のありがたさを知りました。最終的に、最後のシーズンではチームの中では打率トップ、最多盗塁、2部の中では最多ヒット数(すべて単打、またヒットのうち6本は田調戦)をマークし、高校生の時に誓ったリベンジを果たすことができたのではないかなと思います。自分がここまでの結果を出せたのは自分の野球に関わってくれたみんながいたおかげです。65期硬式野球部としてみんなと一緒に野球をできたことは自分の一生の財産となりました。後輩には挑戦と考える気持ちを大切にしてほしいです。挑戦しその結果を分析したり新しい考えを取り入れてみたりして試行錯誤することで野球は面白くなってくると、そうなれば自然と練習したいと思えてくるかもしれません。そしてそれが成果となって表れると思います。

自分は小学一年生から野球を続けてきましたがもうこれで本気で野球をすることは無いと思います。自分の野球に携わってくれた皆さんに感謝の意を表して最後の言葉とします。本当にありがとうございました。

3 大隊責任者兼グッズ係

西村 悠喜



1. 内野手
2. 航空要員
3. 機能材料工学科
4. 狭山ヶ丘高校
5. 右投右打

まずこの四年間野球部の活動を支えてくださったOB会や顧問の方々に感謝いたします。

さて、毎年もらってもすぐになくしてしまう球友をとうとう書く立場になったんだなとしみじみ感じています。この野球部に入部したきっかけは高校時代に公式戦のベンチに入ったことが無くもちろん試合にも出たことが無かったため、試合に出て活躍したいと感じたからです。最後のリーグ戦は大した成績を残すことができず悔しい最後になったものの四年間自由に楽しんで野球をすることができました。

後輩たちに言いたいことは試合に出ようが出なかりょうが最後までやり抜いてください。4年生がフェードアウトしていく姿なんてとってもカッコ悪いし、下の子たちに必ず見られています。カッコ悪い姿は見せないようにしましょうあと、65期がデザインしたユニフォーム大事に着てね！

最後にこのチームで野球ができたこと幸せでした。みんなありがとう

1 大隊責任者兼安全係補佐

長橋 良平



1. 捕手
2. 陸上要員
3. 応用化学科
4. 金沢泉丘学校
5. 右投右打

小学三年の秋に、当時仲の良かった友達に誘われ、始めた野球からもう13年が経ちました。まさか自分が高校野球、そして大学野球をやるとは思ってもみませんでした。途中何度も野球をやめたくなる場面はあったと思いますが、引退等で野球をやらなくなる期間が空くと、なぜか毎度、結局野球をしたくなる衝動に駆られていました。

決して上手くはなかったけど、ここまで野球を続けてこれたのも、その時々チームメイト等の支えがあったからだと思います。そしてこの防大硬式野球部で出会えた、先輩、後輩、監督、コーチ、顧問、OBの方々そして、4年間一緒に頑張ってきた65期のみんながいなければ今の自分もいなかったと思います。また阿部主将を中心として65期野球部は本当にいいチームだったと実感します。秋1部昇格の夢は叶わなかったけどそれは66期政権以下がいつか実現してくれるでしょう。

最後になりますが、卒業しても皆さんとはまたどこか部隊や私生活等で会えたら嬉しいです。本当にありがとうございました。

PXでは極力会いたくないです。

6. 66期主将挨拶

66期主将

斉藤 理希



1. 外野手
2. 航空要員
3. 公共政策学科
4. 浦和高校
5. 右投左打

65期の皆様、お久しぶりです。66期主将の斉藤です。

皆様と野球をしていた日々を懐かしく感じるようになりました。

コロナウイルスの影響で3月から正常な活動ができず、春リーグも無くなり、もっと一緒に野球がしたかったというのが正直な気持ちですが、65期が残してくれたスピリッツは確実に私たちの心に宿っています。特に65期のチーム目標であった「楽しむ」は、65期の皆様が先頭に立って体現してくれたことで部員の一人一人が達成できていたのではないかと思います。66期政権ではこの目標を継承しつつ、さらにレベルアップしようと目標を「明るく、楽しく、元気よく」に設定しました。野球に限らずですが、「楽」ばかりしては本当の「楽しさ」は生まれないと感じています。チーム全員で困難を超えていくことにより、初めて本当の「楽しさ」が味わえるのだと思います。長いようで短い冬の期間を乗り越え、チーム一丸となって春のリーグ戦に臨みます。

66期で目指していきたい野球は「考える」野球です。野球というスポーツは知っての通り奥深く、課題を乗り越える度にまた課題が生まれてきます。果てしない旅のようですが、考えることをやめてしまうとそこで成長を止めてしまうのと同じです。勝ちを追求し、どうしたら勝利に近づくかを常に考えていきたいと思います。

最後になりましたが、日頃から監督、総監督、部長をはじめとする顧問の方々、またOB会にも様々な支援をいただき私たちは活動できています。本当にありがとうございます。今後とも硬式野球部をよろしく願いいたします。

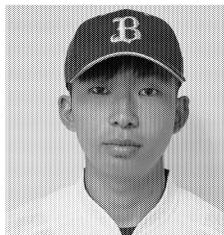
7. 顧問名簿

令和2年12月1日付

所 属	氏 名	役 職
機械工学科教員	横井 嘉文	部 長
情報工学科教員	渡邊 宏太郎	副部長
硬式野球部OB（部外）	道本 光一郎	総監督
第312小隊指導教官	大橋 健人	監 督
訓練課	加藤 俊介	助監督
情報工学科教員	松原 隆	コーチ
硬式野球部OB（部外）	寶嶋 賢二	コーチ
訓練課	杉本 雄一	コーチ
訓練課	奥山 兼太朗	コーチ

8. 部員紹介

《66期》



井上 拓也

1. 投手
2. 陸上要員
3. 国際関係学科
4. 浦和高校



浦川 徳紫

1. 投手
2. 陸上要員
3. 機械システム工学科
4. 八女高校



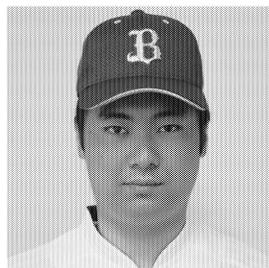
志筑 由隆

1. 投手
2. 航空要員
3. 航空宇宙学科
4. 神戸高校



永野 摩紘

1. 投手
2. 陸上要員
3. 機械システム工学科
4. 熊本国府高校



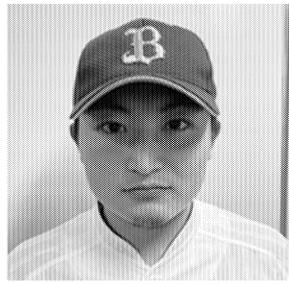
野田 航生

1. 投手
2. 海上要員
3. 機械システム工学科
4. 八戸高校



伊良皆 盛琳

1. 捕手
2. 陸上要員
3. 機能材料工学科
4. 向陽高校



秋元 風悟

1. 内野手
2. 陸上要員
3. 通信工学科
4. 八戸東高校



吉田 和磨

1. 内野手
2. 陸上要員
3. 応用物理学科
4. 常総学院高校



加藤 猛

1. 外野手
2. 陸上要員
3. 機械工学科
4. 山形南高校



菅崎 正浩

1. 外野手
2. 海上要員
3. 情報工学科
4. 岡山城東高校



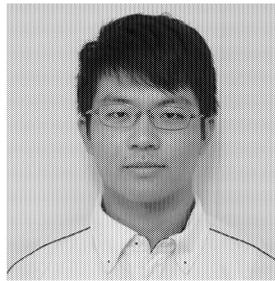
齊藤 理希

1. 外野手
2. 航空要員
3. 公共政策学科
4. 浦和高校



山田 圭花

1. 外野手
2. 陸上要員
3. 機械システム工学科
4. 向陽高校



滝沢 一真

1. 主 務
2. 陸上要員
3. 機械システム工学科
4. 県立津南中等教育学校



高谷 慶太郎

1. 投手
2. 陸上要員
3. 理工学専攻
4. 松本深志高校



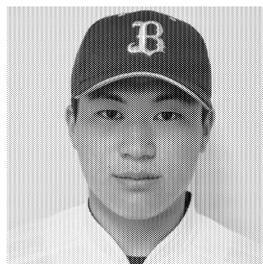
幡谷 寛朗

1. 投手
2. 海上要員
3. 人文社会学専攻
4. 水戸第一高校



小針 邦靖

1. 捕手
2. 陸上要員
3. 機械工学科
4. 水城高校



宇土 龍多

1. 内野手
2. 航空要員
3. 電気電子工学科
4. 長崎日大高校



奥田 裕希

1. 内野手
2. 陸上要員
3. 電気電子工学科
4. 星稜高校



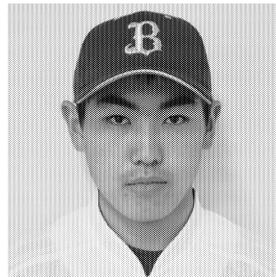
加古 達也

1. 内野手
2. 航空要員
3. 航空宇宙工学科
4. 小松高校



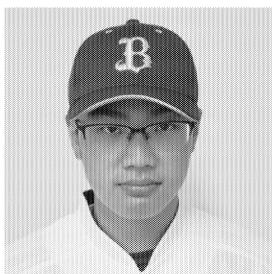
小早川 隼人

1. 内野手
2. 海上要員
3. 機能材料工学科
4. 愛産大三河高校



佐治 暁

1. 内野手
2. 陸上要員
3. 地球海洋学科
4. 栄東高校



新宅 大紀

1. 内野手
2. 陸上要員
3. 国際関係学科
4. 東京成徳大付高校



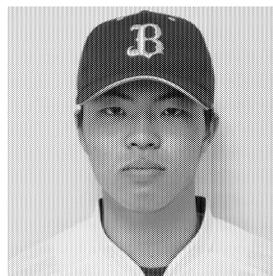
田辺 直樹

1. 内野手
2. 陸上要員
3. 応用化学科
4. 山手学院高校



俵 啓大

1. 内野手
2. 陸上要員
3. 建設環境工学科
4. 宮崎北高校



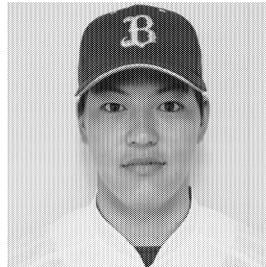
井口 遼平

1. 外野手
2. 陸上要員
3. 地球海洋学科
4. 向陽高校



中村 悠貴

1. 外野手
2. 陸上要員
3. 情報工学科
4. 佐賀西高校



原 裕典

1. 外野手
2. 陸上要員
3. 公共政策学科
4. 一条高校



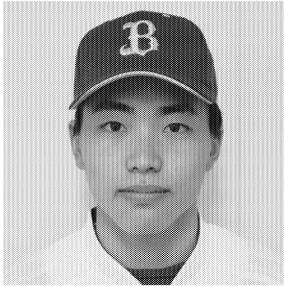
廣瀬 智那

1. 外野手
2. 航空要員
3. 情報工学科
4. 鷗友学園女子高校



松本 颯太朗

1. 外野手
2. 陸上要員
3. 情報工学科
4. 愛光高校



水上 也京

1. 外野手
2. 航空要員
3. 機械システム工学科
4. 小松高校



水戸 勇輔

1. 外野手
2. 陸上要員
3. 電気電子工学科
4. 小松高校



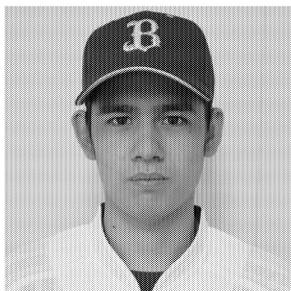
森井 颯

1. 外野手
2. 陸上要員
3. 応用物理学科
4. 工学院大付高校



和田 康希

1. 外野手
2. 航空要員
3. 電気電子工学科
4. 嘉穂高校



益田 武

1. 投手
2. 共通要員
3. 理工学専攻
4. 宇和島東高校



松浦 武蔵

1. 投手
2. 共通要員
3. 理工学専攻
4. 横浜修悠館高校



伊賀 大起

1. 内野手
2. 共通要員
3. 人文社会学専攻
4. 瀬戸高校



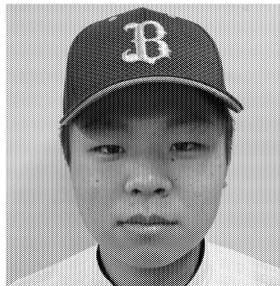
大野 瑞樹

1. 内野手
2. 共通要員
3. 理工学専攻
4. 柏陽高校



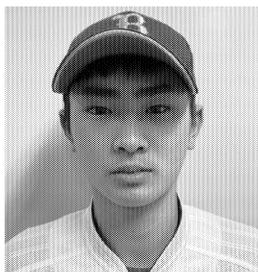
小笠原 瑞紀

1. 内野手
2. 共通要員
3. 理工学専攻
4. 土佐高校



加藤 淳也

1. 内野手
2. 共通要員
3. 理工学専攻
4. 安田学園高校



雉子牟田 修

1. 内野手
2. 共通要員
3. 理工学専攻
4. 加治木高校



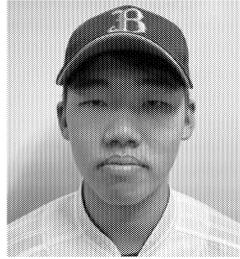
末次 飛翔

1. 内野手
2. 共通要員
3. 理工学専攻
4. 京都高校



三浦 大介

1. 内野手
2. 共通要員
3. 人文社会学専攻
4. 巣鴨高校



秋山 俊之

1. 外野手
2. 共通要員
3. 人文社会学専攻
4. 丹入高校



齋藤 佳志郎

1. 外野手
2. 共通要員
3. 理工学専攻
4. 川和高校



櫻田 信宏

1. 外野手
2. 共通要員
3. 理工学専攻
4. 東北学院高校



西村 凌太朗

1. 外野手
2. 共通要員
3. 理工学専攻
4. 東京成徳大高校



森北 尚磨

1. 外野手
2. 共通要員
3. 理工学専攻
4. 横浜修悠館高校



守屋 元喜

1. 外野手
2. 共通要員
3. 人文社会学専攻
4. 巣鴨高校



山川 樹

1. 外野手
2. 共通要員
3. 人文社会学専攻
4. 北陸高校

9. 65期成績

2020年 秋季リーグ

	松大	国大	市大	芸大	防大	田大	勝点	勝	負	勝率	順位
松陰大学		○●	○○	○○	○○	○○	9	9	1	0.900	優勝
横浜国立大学	●○		●○	○○	○●	○○	7	7	3	0.700	2位
横浜国立大学	●●	○●		●●	○○	○○	5	5	5	0.500	3位
東京工芸大学	●●	●●	○○		●○	○○	5	5	5	0.500	3位
防衛大学校	●●	●○	●●	○●		○○	4	4	6	0.400	5位
田園調布学園大学	●●	●●	●●	●●	●●		0	0	10	0.000	6位

2020年9月13日 第一試合 防衛大学校 × 松陰大学 東京工芸大学グラウンド

■ 試合開始時間 08:35 ■ 試合終了時間 10:51 ■ 試合時間 2時間16分

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
防衛大学校	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
松陰大学	1	2	3	0	0	0	0	0	×	6

防大：浦川、髙谷、松浦 - 阿部

松大：牧内、小林、井上、安部 - 中川

<二> 加藤 (防大)

<三>

<本>

20年9月19日 第三試合 防衛大学校 × 東京工芸大学 サーティーフォー相模原球場

■試合開始時間 15:54 ■試合終了時間 17:54 ■試合時間 2時間

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
防衛大学校	0	0	0	0	2	0	2	0	0	4
東京工芸大学	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2

防大：浦川 - 阿部、小針

工芸大：相原、深谷 - 橋本

<二> 齋藤、田辺（防大）、中尾（工芸大）

<三>

<本>

20年9月20日 第二試合 東京工芸大学 × 防衛大学校 サーティーフォー相模原球場

■試合開始時間 12:12 ■試合終了時間 14:36 ■試合時間 2時間24分

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
東京工芸大学	1	1	0	1	0	0	0	2	0	5
防衛大学校	0	3	0	0	0	0	0	1	0	4

工芸大：大川 - 橋本

防大：高谷、松浦、坂口 - 阿部

<二> 中尾2、関、荒井、市澤、神尾（工芸大）

<三>

<本> 佐藤（工芸大）

20年9月27日 第二試合 田園調布大学 × 防衛大学校 東京工芸大学野球場

■ 試合開始時間 12:54 ■ 試合終了時間 15:01 ■ 試合時間 2時間7分

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
田園調布大学	0	0	0	0	0	2	0	1	0	3
防衛大学校	0	0	3	0	0	2	0	2	X	7

田調大：吉田、中村 - 髙橋、丸尾

防大：浦川、志筑、松浦、坂口 - 阿部、長橋

<二> 森井、田辺 (防大)

<三> 斉藤 (防大)

<本>

20年10月3日 第一試合 横浜国立大学 × 防衛大学校 横浜国立大学グラウンド

■ 試合開始時間 10:25 ■ 試合終了時間 13:10 ■ 試合時間 2時間45分

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
横浜国立大学	1	4	1	3	0	0	0	0	0	9
防衛大学校	0	0	0	0	0	0	4	3	0	7

国大：杉崎、奈須、佐藤 (志)、藤井、君塚 - 高階、亀沢

防大：浦川、志筑、松浦、坂口 - 阿部、小針

<二> 林、森山、黒木、三宅 (国大)、西村 (悠)、加藤 (防大)

<三> 黒木

<本>

20年10月11日 第一試合 防衛大学校 × 横浜市立大学 東京工芸大学グラウンド

■ 試合開始時間 10:22 ■ 試合終了時間 12:30 ■ 試合時間 2時間8分

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
防衛大学校	0	0	0	0	0	1	1	0	1	3
横浜市立大学	0	0	2	0	1	0	0	2	X	5

防大：高谷、浦川、松浦、坂口 - 小針、阿部

市大：遷江 - 竹森

<二> 加藤、齊藤 (防大)

<三>

<本>

20年10月18日 第一試合 防衛大学校 × 田園調布大学 東京工芸大学グラウンド

■ 試合開始時間 10:25 ■ 試合終了時間 12:56 ■ 試合時間 2時間31分

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
防衛大学校	0	0	2	2	0	0	0	3	1	8
田園調布大学	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3

防大：松浦、高谷、志筑、浦川、坂口 - 小針

芸大：中村、吉田、氏神、樋口 - 丸尾、高橋

<二>

<三> 田辺

<本>

20年10月24日 第二試合 横浜市立大学 × 防衛大学校 東京工芸大学グラウンド

■試合開始時間 11:32 ■試合終了時間 13:36 ■試合時間 2時間04分

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
横浜市立大学	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
防衛大学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

芸大：遠江 - 竹森

防大：松浦、浦川、坂口 - 小針

<二>

<三>

<本>

20年10月25日 第二試合 松陰大学 × 防衛大学校 東京工芸大学グラウンド

■試合開始時間 10:46 ■試合終了時間 12:59 ■試合時間 2時間13分

	1	2	3	4	5	6	7	合計
松陰大学	2	0	0	3	7	5	0	17
防衛大学校	0	0	1	1	0	3	X	5

松大：安部、小谷、高橋（拓）、小林 - 金城、山崎、中川

防大：高谷、松浦、浦川、坂口 - 小針、長橋

<二>金城2（松大）、加藤（防大）

<三>大坪、北原（松大）

<本>

2部リーグ 表彰選手

	氏名	大学名
最優秀選手賞	中川 雄斗	松蔭大学
最優秀投手賞	遠江 颯太	横浜市立大学
首位打者	中川 雄斗	松蔭大学
打点賞	弘中 真澄	松蔭大学
敢闘賞	森山 皓介	横浜国立大学

平成・令和期の順位

年 代	1部春順位	1部秋順位	2部春順位	2部秋順位
平成元年	5	6		
平成2年	5	6		
平成3年	6	6		
平成4年			1	1
平成5年			1	1
平成6年	6			1
平成7年		6	1	
平成8年			1	1
平成9年			1	1
平成10年			1	1
平成11年			1	2
平成12年			1	1
平成13年			1	1
平成14年			1	1
平成15年			2	1
平成16年			2	1
平成17年			2	1
平成18年			4	2
平成19年			3	3
平成20年			4	4
平成21年			4	3
平成22年			4	4
平成23年			4	3
平成24年			5	5
平成25年			5	3
平成26年			4	3
平成27年			4	5
平成28年			4	4
平成29年			3	2
平成30年			6	5
令和元年			5	4
令和2年			中 止	5

歴代の受賞者

年代	部	氏名	受賞内容
昭和33年（春）	1	金子 由成	首位打者
昭和39年（秋）	1	渡辺 広志	首位打者
昭和41年（春）	1	河村 嘉宏	ベストナイン（外野手）
昭和43年（春）	1	福井 祐輔	ベストナイン（外野手）
昭和43年（春）	1	久玉 清人	首位打者
昭和44年（春）	1	井上 洋	ベストナイン（二塁手）
昭和44年（秋）	1	清水 元	首位打者
昭和48年（秋）	1	寺崎 芳治	ベストナイン（一塁手）
昭和48年（秋）	1	近松 和昭	ベストナイン（三塁手）
昭和49年（春）	1	斉藤 亮二	ベストナイン（一塁手）
昭和49年（春）	1	石井 雅久	ベストナイン（外野手）
昭和49年（秋）	1	片山 和美	敢闘賞
昭和50年（春）	1	小深田 元	ベストナイン（二塁手）
昭和50年（春）	1	吉村 志郎	ベストナイン（外野手）、首位打者
昭和50年（秋）	1	鎌田 正広	ベストナイン（遊撃手）
昭和50年（秋）	1	大池 宜行	ベストナイン（外野手）、首位打者
昭和51年（春）	1	島田 徹也	ベストナイン（三塁手）
昭和51年（春）	1	鎌田 正広	ベストナイン（遊撃手）
昭和51年（春）	1	大池 宜行	ベストナイン（外野手）
昭和51年（秋）	1	大池 宜行	ベストナイン（外野手）
昭和52年（秋）	1	島田 徹也	ベストナイン（三塁手）
昭和57年（春）	1	徳永 浩敏	ベストナイン（捕手）
昭和57年（春）	1	山崎 幸二	ベストナイン（二塁手）
平成2年（春）	1	前島 秀彦	ベストナイン（一塁手）
平成2年（春）	1	長渕 秀彦	打率3位
平成17年（不明）	2	大澤 仁士	最優秀選手賞
平成17年（不明）	2	西津 伸一郎	首位打者
平成18年（秋）	2	田之倉 威啓	敢闘賞
平成23年（秋）	2	西原 功二	首位打者
平成23年	2	西原 功二	校友会褒章
平成24年（春）	2	大橋 健人	打点賞
平成25年（春）	2	尾崎 瑞樹	首位打者
平成25年（秋）	2	尾崎 瑞樹	首位打者
平成26年（秋）	2	尾崎 瑞樹	打点賞
平成26年	2	笠原 千鶴	校友会褒章
平成29年（春）	2	大沼 直観	打点賞
平成29年（秋）	2	尾藤 郷志	敢闘賞
平成29年	2	硬式野球部	校友会褒章
令和元年（秋）	2	斉藤 理希	首位打者

（※判明分）

10. OB会だより

【OB会費のお願い】

普通会費：1口5,000円/年、終身会費（50歳に達した方）：50,000円

口座番号：ゆうちょ銀行 普通口座 00260-7-1912

口座名義：防衛大学校硬式野球部OB会

（通信欄に「期別」「普通会費/終身会費/寄付」をご記入ください。）

【ホームページのご案内】

検索エンジンにて、「防衛大学校 硬式野球部」と入力ください。

逐次、試合情報等を更新中です。

1 1. 編集後記

65 期のみなさん、4 年間お疲れ様でした。65 期政権の「楽しむ」というスローガンの下、日々の花立での野球は大変楽しいものとなったのは皆さまのおかげです。今年はコロナウイルス感染拡大という社会情勢の中、リーグ戦が中止になったり、校内においても合宿の中止や練習の制限を余儀なくされた中、チームを盛り上げまとめ上げた 65 期のリーダーシップには、学ぶことが多くありました。

65 期からのお言葉には、それぞれの野球への想いが綴られ、普段部活をともにしてる時には考えられないような野球への考えをお持ちであるのだと改めて実感しました。こうした一人一人の思いや考えを吸収し、後輩につなぐことが、この先の防大硬式野球部のさらなる発展につながるのだと思います。65 期の掲げた「楽しむ」というチームスローガンを受け継ぎつつ、65 期が達成できなかった目標を達成できるが如く、野球の技術的にも、一組織としてもさらなる高みを目指して 66 期以下も頑張っていきたいと思います。

そしていつか、グラウンドに我々後輩の姿を見に来ていただきたいです。今まで本当にありがとうございました。



66 期OB係 井上 拓也、浦川 徳紫

題 字 : 種田 庸二
印 刷 : 令和 3 年 2 月 22 日
発 行 : 令和 3 年 2 月 25 日
発行者 : 神奈川県横須賀市走水 1 - 10 - 20
防衛大学校硬式野球部
<http://www.nda.ac.jp/ed/kousikiyakyuu/>
印刷者 : 株式会社ワコー
〒 102-0072 東京都千代田区飯田橋 3-11-7
電話 03-3295-8011